

大学院体験記



渡邊 紀晶

平成28年度大学院卒業しました渡邊紀晶です。私の大学院での生活について体験記という形で報告させていただきます。

私は平成19年3月に関西医科大学を卒業し、広島大学病院で研修医として研修を開始しました。研修中に興味を持った循環器という領域において、時を同じくして新しく広島大学に循環器内科が発足され、広島大学循環器内科に後期研修医1期生として入局させていただいております。後期研修の内容については研修体験記で述べさせていただいておりますので割愛させていただきますが、土谷総合病院、JA尾道総合病院で研修させていただいた後、医師として7年目、平成25年4月に帰学しております。

大学院1年生の段階で以前より興味があった虚血性心疾患のグループに入り臨床業務に携わりながら研究を行うといった形で研究を開始致しました。帰学するまで症例発表は行っておりましたが、データの収集や統計学的検討などはしたことはなく栗栖先生を中心とした先生方のご指導の下、研究テーマを探し過去の臨床データを用いてデータの収集と検討をしていくという経験をさせていただきました。

2年目からは病棟業務としては虚血性心疾患を中心としたカテーテル検査と治療、入院患者への心臓リハビリテーションへの介入と指導、外来業務として心臓CTを行い、また教育面としては主に研修医を対象にBLS・ACLSインストラクターとして活動を行いました。

研究についてですが引き続き臨床データを活用し検討を試みました。論文に出来なかった研究もありましたが最終的に冠動脈の石灰化と中心血圧をテーマに研究を行い、心臓CTで撮影した冠動脈の石灰化と血圧の質の評価として期待される中心血圧・脈波反射 (Augmentation index : AI) に注目し関連性を発表しております。大学院での研究活動を通し、全国学会での発表機会など種々たくさんの良い機会もいただきました。自らの研究を発表、論文とすることができたのはひとえに栗栖先生をはじめとした上級医の先生方のご指導の賜物と感謝しております。

大学院で経験した研究は論文や医療現場の見方を変えて自分の糧となっており、今後はまた臨床医として生活していきますが、この経験を生かして今後も出会う医療現場に生かしていきたいと思っております。

最後になりましたが、広島大学循環器内科の1期生として目をかけていただきました木原教授、データの見方からわからない私を最初から手取り足取りご指導いただきました栗栖先生、また臨床現場および論文作成でご指導賜りました循環器内科の先生方にこの場を借りて御礼を申し上げます。ありがとうございました。



(BLS 講習会、ACLS 講習会にて)